

活用事例	2 4 9 昼休みに地震・火災が発生し、避難経路を変更しなければならなくなった場合の隣接する学校との合同避難訓練 【特色】ブラインド方式、小中合同の避難訓練		
学校名	宇部市立小野小学校・小野中学校		
日時	平成25年12月2日（月） 昼休み時間		
場所	教室・運動場・体育館	参加者	児童生徒・教職員及び消防署職員

1 訓練のねらい

- (1) 初期発見・緊急避難訓練に重点を置いて、防火・防災組織を確認することで、防火・防災意識を養うとともに、迅速・静粛かつ秩序ある安全な団体行動の訓練を行う。
- (2) 災害時に、小中が連携して安全な行動がとれるよう、小中の避難のしかたの確認を行う。



2 訓練の概要

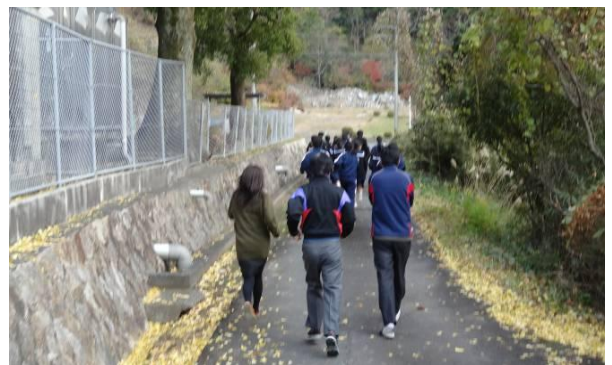
- (1) 状況設定
 - ① 地震発生 13:30～13:31
 - ② 地震の大きさ 震度5弱
 - ③ 出火時刻 13:32頃
 - ④ 出火場所 小学校給食室
 - ⑤ 風向き 北北西の風8m/S

- (2) 避難訓練過程
 - ① 地震発生・待機 13:30
 - ・緊急地震速報アラーム音
机の下に待避、または物が倒れてこない安全なところで揺れが収まるまで待機する。(体育座り)
 - ② 1回目の放送
 - ・全校への通報(緊急全校放送)

「訓練、訓練。地震は収まりましたが余震の可能性がります。生徒の皆さんは、しばらくその場に待機してください。先生方は出口を確保し、安全を確認してください。繰り返します…」

- ③ 2回目の放送 13:32
 - ・全校への通報(緊急全校放送)

「訓練、訓練。今の地震により、給食室から出火しました。生徒の皆さんは、校地の外を回って小学校グラウンドまで避難してください。繰り返します…」



- ④ 避難誘導
 - ・避難場所(本部設定)
小学校グラウンド
【雨天時 … 中学校体育館】
 - ・誘導
各場所の教職員が避難誘導する。
(避難経路)
室内では歩く。できるだけ早く屋外に出て、校地の外を回って移動・避難する。

留意事項

- 出火場所、風向き、避難経路の確認をする。
- ストーブ、電源を切り、窓を閉める。
- 身のまわりの物はそのままにしておく。
- 担任は出席簿(名簿)を持ち出す。
- 無言、沈着、冷静、安全に避難する。
- 前の者を押ししたり、追い越したりしない。
- 上履きのまま避難する。
- ハンカチで口を押さえて避難する。

- ⑤ 避難場所での隊形
本部の旗に向かって、全校集会の隊形に集合する。
【雨天時 … 中学校体育館の入口
に向かって集合】

- ⑥ 点呼確認
点呼完了後、学級委員男子は直ちに人員を確認し、異常の有無を本部（教頭）へ連絡する。教頭は校長へ報告する。

「〇年 在籍数〇名、欠席者〇名、
現在人員〇名、全員異常なし
(△△がいません)」

※ 行方不明者がいる場合には、
養護教諭と男性教諭2名で探し
助け出す。

- ⑦ 待機
集合完了した生徒はその場に座り、次の指示まで静かに待機する。

- ⑧ 講評および水消火器体験



消防署の講師による講評



水消火器体験の実施

… 小学校教諭 3名 …
… 中学校教諭 3名 …

- ⑨ 校長先生の講評

3 訓練の成果と課題

【成果】

- (1) 生徒のアンケートから

◇ 消火器の使い方が改めて確認できたのでよかった。また、火が背丈以上になると避難するというのを知った。これから、乾燥してくるので火の使用には十分に気をつけたい。

◇ 避難訓練が突然あって驚いたが、運動場まですばやく行動できた。いつ火事や地震があるか分からないので、こうした避難訓練を大切にしていきたい。

◇ 最初、何事かとびっくりした。しかし、この訓練(ブラインド方式)はとても大切だと思う。それは、本当の災害はいつ起こるか予知できないからだ。その中で、僕たちはしっかりと状況を理解することが、生き延びるために必要なことだと思った。

- (2) 教職員のアンケートから

◇ 昼休みという、生徒がどこにいるか分からない状況での訓練だったので、生徒もそれぞれの場所で動くことができた。

また、自分自身も教師としてどうすべきかを考えることができた。

◇ ブラインド方式での訓練も必要だと感じた。

【課題】

◆ いつ災害が起こるか分からない状況において、ブラインド方式での避難訓練は、有効だと考えられる。今後は、午前の授業中や掃除時間など、時間設定についても工夫して計画したいと考えている。

また、本校は海拔が45mあり、津波による災害は想定外であるが、将来、児童生徒が小野地域から他の場所で生活することも考えて、さまざまな災害を想定した避難訓練が必要である。